



長野県難聴児支援センター

ニュースレター

平成28年
第2号

長野県保健・疾病対策課

信州大学医学部附属病院耳鼻咽喉科



今年も暑い日が続きます。「夏と言えば?」・・・「花火」「アイスクリーム」「ひまわり」は今も昔も変わらない夏のイメージでしょうか?「麦わら帽子」「風鈴」「蚊取り線香」はなかなか見られなくなりました。このような「～と言えば」といったやりとりは、言語を獲得していく子どもにとっても大切です。ひとつのことばに多くの経験や思い出が結び付いて、ことば＝イメージとなります。聞いたり読んだりしたときに豊かに感じられるかどうかは、この「イメージ」の豊かさにつながっていきます。

そして、今年は「オリンピック・パラリンピック」も夏の思い出に加わりそうですね。



「難聴児支援の現状と課題」

長野県難聴児支援センター センター長

信州大学医学部耳鼻咽喉科 教授

宇佐美 真一



難聴児の支援のためには医療、教育、行政のほか様々な方との連携が必要です。長野県難聴児支援センターは「行政—医療—教育」が一体となり難聴児を支援するために、長野県と信州大学病院が共同で立ち上げましたが、異なる専門家が加わり連携し難聴児を支援するモデル事業としても注目され、実際いくつかの自治体では長野県の取り組みを参考にした仕組みが立ち上がっています。

全国的に新生児聴覚スクリーニング、遺伝子診断、人工内耳といった新しい医療の発達に伴い、難聴児の流れが大きく変わりつつあります。一昔前までは重度難聴児は補聴器をつけてろう学校で学ぶといった形が一般的でしたが、新生児聴覚検査事業が始まってから難聴児の流れが大きく変わってきています。最近では人工内耳により良い聴こえを獲得し通常学級で学ぶ子どもたちが増えていますが、この傾向は今後変わることはないと思われます。難聴児の原因は様々です。それぞれの難聴児の聴こえや親御さんのご希望に合わせ最適な医療環境、療育環境、教育環境を選択するお手伝いをし、さらにそれぞれの難聴児のポテンシャルを伸ばすために何が出来るかを考え支援して行くことがますます重要になってくると考えています。

長野県で新生児聴覚検査が定着したとはいえ、まだまだ啓蒙が必要な場面に遭遇することがあります。引き続き各方面への啓蒙活動に力を入れたいと考えております。関係者の方々には今後ともいろいろな角度からご協力、ご支援いただくことになるかと思いますが、よろしくお願い申し上げます。



第3回ファミリーセミナー」開催

8月6日（土）第3回目のファミリーセミナーを開催しました。この日は36度を超える猛暑の上、県内各地で大きなお祭りがある日でしたが多くの方にお集まりいただきました。

講師は北野庸子先生。北野先生は、信州大学人工内耳センターにて「子どもの言語力を高めるためのやりとり～家庭でできる語りかけ」を中心に、多くの子どもと保護者にかかわってこられました。この日も、自作の手作りおもちゃや、子どもの発達段階に応じたお薦め遊具を実際に多数紹介しながら、子どもの興味にそった遊びや話しかけについて学び合いました。

「単語でなく、短い文章で話しましょう」「抑揚豊かに話しましょう」「擬声語や擬態語をたくさんお話の中でつかいましょう」という具体的なお話に、参加したお母さんお父さんはメモを取りながら、実際に目の前にいる赤ちゃんに早速実践している場面も見られました。



- ①色のコントラストがはっきりしていて、
- ②お子さんが握りやすく、
- ③感覚（聴覚・触覚・視覚）にはたらきかけるようなおもちゃが良いでしょう

※首が座る前の子どもへのおもちゃ例より

また、おもちゃの紹介では赤ちゃんの発達に即した遊具を実際に手にしながら大切なポイントをお聞きすることができました。「首が座る前のお子さん」→「首が座ったところのお子さん」→「動き始めたら」と、それぞれに心がけたいおもちゃの特徴とことばのかけ方を学ぶことができました。この通りにやるのが大切なのではなく、ポイントを知った上で各家庭での工夫や楽しみ方を見つけていくこと、子どもと一緒に遊びを作っていくことが大事なのだと感じました。

この会には、おうちの方をはじめ、地域の保健師さん、耳鼻咽喉科の医師、言語聴覚士さんも参加していただきました。子どもを取り巻く「みんな」で成長を支援していることが実感でき、嬉しく心温まる会となっています。

「今まであまり知らなかったけど、ちょっとでも勉強して孫の成長を一緒に支えてやりたいと思います」

とは、参加いただいたおじいさんからの感想です。

第4回は、右記の日程で計画しています。
みなさまのご参加をお待ちしております。
（詳細は裏面及びHPをご覧ください）



第4回ファミリーセミナー

日時； 9月10日（土） 午後3時～

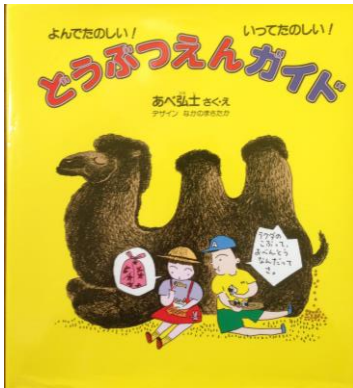
講師； 立花 祐子さん

内容； 「先輩ママの話」 他



支援センターより『お薦め絵本』

ファミリーセミナー講師北野先生とのお話から、絵本の話題になりました。絵本を通した子どもとのやりとりは「その時」ならではの貴重な時間です。北野先生から「面白い絵本がありますよ」と教えていただいたので、合わせて支援センターから「やりとりを楽しみたい絵本」をご紹介します。



北野先生よりお薦め

『どうぶつえんガイド』 あべ弘士 作・絵 (福音館書店)

この絵本は「動物の見方」を楽しく身に着けることができます。ひとつの絵、一匹の動物を見ただけでも、こんなに豊かに感じながらことばをやりとりできるんだ！と、目からうろこの絵本です。

「ラクダ」と言えることも大事ですが、「あのコブの中身は…」と考えると親子のやりとりが楽しくなります。「見えていることをことばにする」という大事な視点を親子で一緒に学べる絵本です。

『ミッフィーとフェルメールさん』 国井美果 文 (美術出版社)

上の絵本を見て私が思い出したのがこの本です。子どもと一緒に楽しめるのはもちろんですが、「絵画をことばで見る」ことをミッフィー親子のやりとりを通して学べる絵本になっています。



『ぴょーん』 まつおかたつひで 作・絵 (ポプラ社)

同じく動物が出てくる絵本で、ことばが出始めた赤ちゃんと楽しくやり取りできるのがこの絵本です。ページをめくるたびにいろいろな動物が「ぴょーん！」とジャンプ。絵本と一緒に親子でジャンプ！読み終わると「モウイッカイ！」とせがんでいきます。

親子で繰り返し楽しみながら、絵を見ること、ことばを聞くことが大好きになっていきます。



『のせてのせて』 松谷みよ子 文 東光寺啓 作 (童心社)

新しい絵本以外にも、やはり昔からある絵本も子どもたちは大好きです。松谷みよ子「あかちゃんの本」もそのひとつ。この絵本にもいろいろな動物が出てきて、繰り返しのセリフがとても楽しい絵本です。そして、この絵本をきっかけに、おもちゃの車とぬいぐるみで「ごっこあそび」を楽しんだり、車で出かける時に「トンネルまっくら」とことばを交わしたり親子のやりとりが膨らみます。



第4回 ファミリーセミナーのご案内

先輩ママからの子育て体験談

- 1 日時 平成28年 9月10日(土) 15:00~16:30
- 2 場所 長野県難聴児支援センター (松本市旭町庁舎2階『多目的室』)
- 3 講師 **立花 祐子さん** (松本在住 小学5年生Rくんのお母さん)
- 4 内容
 - ・出生から幼児期にかけて(家族の思いと実践)
 - ・幼児期から児童期にかけて(地域や人との連携)等
 - ※「福祉や教育」について(支援療育員;丸山)
- 5 参加費 **無料**



みみよい情報

◇この時期 便利な「ブローアー」

「イヤモールドの先に水滴が見える・・・」というご相談をいただきました。汗や湿気が気になるこの季節。便利なのが「ブローアー」です。チューブの水滴を吹き飛ばしたり、イヤモールドの掃除に使えたりと、いろいろな場面で使えます。補聴器屋さんで購入できますし、お近くの家電量販店でも売っています。汗をかいたらこまめに拭き取るとともに、細かい水滴にも注意しながら機器を故障から守りましょう。



長野県難聴児支援センター

TEL:0263-34-6588

FAX:0263-34-6589

Mail:mimi@shinshu-u.ac.jp

住所:松本市旭 2-11-30 松本旭町庁舎 2階

支援療育員;丸山秀樹

※ご相談、お問い合わせ等
お気軽にご連絡ください

